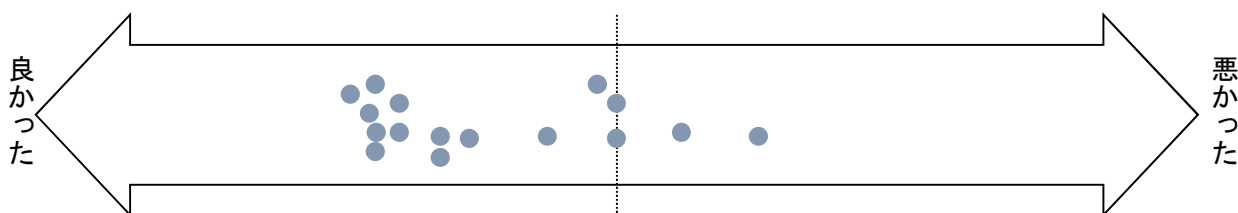


1) 全体のまとめ

■総合評価



【総合評価：良かった】

○芸術祭の方向性について

- ・前回の芸術祭と比べると内容は改善された。
- ・バリエーションのある展開が良かった。
- ・ファインアートとしては問題があったかもしれないが、面白かった。
- ・音楽と美術というテーマが楽しかった。
- ・芸術祭が何を目指しているのかが分からない。

○作家やゲストディレクターの魅力について

- ・テーマやテーマに沿った個々の作品の内容は興味深く、作家の色々な価値観が感じられて良かった。
- ・市民参加型の企画は、ゲストディレクターの個性が出ていて、面白かった。

○市民の関心や情報発信について

- ・市民の関心が前回よりも低かった。
- ・作家や運営側の頑張りや意図が市民に伝わっていない。

○会場について

- ・会場が多く、広すぎた。会場へのアクセスや誘導を改善して欲しい。
- ・市内を旅する感じで良かったが、周りきれない数で全部行けず悔しかった。

○国際化について

- ・バイリンガルではないことが残念。

○その他

- ・実施したこと自体が素晴らしかった。
- ・ボランティアや運営側としても、楽しかった。
- ・作品と運営の双方を総合的に評価するのは難しい。

【総合評価：中間】

○作家や作品について

- ・有名な方も出ていた。
- ・資料だけでは理解できないものも、実際に見に行くと意図が理解できた。一方で、現代アートとしては、物足りなさもあった。

○国際化について

- ・石山ではベトナムのアーティストが参加するなど、国際的なことは良かった。

○札幌らしさについて

- ・熊の木彫りは、北海道のものとして良かった。
- ・札幌で芸術祭を実施していることの特徴を出したほうが良い。
- ・資料館の熊の木彫りは良かったが、あれが芸術かと言われると少し疑問である。北海道の芸術とするならば熊の木彫りは元々アイヌが作ったものではない。テーマとミスマッチかもしれない。

【総合評価：悪かった】

○会場について

- ・会場をちりばめたことで芸術が札幌市を覆うという取組は良かった。
- ・会場が遠く、高齢者にとっては会場に行くのが大変だと感じた。
- ・会場の位置が分かりづらく、ナビにも表示されないような場所があった。

○会場の誘導や動線について

- ・会場の入口や駐車場の位置が分からず、誘導が必要だと感じた。
- ・より人の動線について考えられていると良いと感じた。

○作品について

- ・広報を見て期待して会場へ行くと少しがっかりするなど、広報とのギャップを感じた。
- ・500m 美術館は、何も知らない人にとってはスキー等の展示がアートとなるのか疑問だった。

■ ①会場構成

【良かった点】

○街中の会場について

- ・街中で芸術祭を見ることができたのは、遠い場所に行かなくても普通に過ごしている中で芸術を感じられ、楽しくて良かった。
- ・廃ビルやゲストハウスなどを使ったことにより、行ったことのない場所に行けた。再発見につながった。
- ・街中の喧騒の中で芸術を鑑賞するというのが、ゲストディレクターのノイズミュージックとリンクしていると思った。

○市全体を使った会場構成について

- ・市内に芸術が広がるという企画としては理想的であり意欲的で素晴らしいと思う。また、テーマに沿った形としては必然的な構成だったのではないかな。
- ・モエレ沼から芸術の森まで、広いが故に旅しているようだった。
- ・芸術祭を機会に普段行かない場所に行くことが出来て良かった。
- ・室内ではなく、屋外の身近な普通の場所を使うということが良かった。

○作品について

- ・金一館ビルの作品が良かった。作品化されていて意外性もあった。全体を俯瞰して見た時に、バリエーションが出て良かったと思う。
- ・音楽は場所が必要ないものなのに、場所を絞って行ったということが逆に面白かった。
- ・「何をやっているか分からない」という意見に対しては、説明書きをせず場に馴染む作り方をしているというコンセプトには合っているという考え方もある。
- ・作家が会場を選べるのが良かった。作家が自分で会場を選ぶ事で作品もより良くなる。

○ボランティアについて

- ・会場内の誘導をボランティアが頑張っていた。

【課題点】

○会場の広さ・多さについて

- ・会場が多すぎて、広く点在しており頑張っても周りきれなかった。スケジュールを綿密に立てないと見に行くことが出来ない。
- ・札幌中心部から遠くアクセスしにくい会場が多く、外からくるお客さんにとっては、札幌での時間が限られていると、モエレ沼と芸術の森はどちらか選択してもらうしかなかった。
- ・街をまわってもらうことが、アートなのかは疑問である。
- ・もう少し、作品がまとまっていると良かった。

○スタッフについて

- ・会場が多すぎたために運営側の人手が足りず大変だった。スタッフやボランティアの人数にあった会場数の設定が必要である。
- ・会場を多くするのであれば、ボランティアやアーティストももっと必要だと感じる。

○会場のつくり方について

- ・チカホの会場は何を意図として展示しているの分かりづらく、会場構成が難しいと感じた。
- ・より気軽に足を運んでもらいたいが、会場の雰囲気的にも入りづらい。

○その他

- ・清田区、手稲区など、会場の無い地区は除外されている感じがあった。
- ・北海道は自然が良いところの一つであるのに、自然の中の作品が少なかった。
- ・バリアフリーに対する情報が足りなかった。

【解決アイデア】

○分かりやすい展示の仕方について

- ・展示ごとの説明やそこに何ががあるかがもっと分かりやすい方がいい。通りすがった人がアートと向き合える空間を主催者側がつくるべきである。

○会場へのアクセスについて

- ・交通手段と合わせた情報提供を行う。
- ・芸術祭を巡る専用タクシーがあってもよい。
- ・瀬戸内芸術祭は船で巡らなければいけないのでリスクイだが、その分、魅力がアップしている。

○気軽に来ってもらう工夫について

- ・一般の人にも足を運んでもらうきっかけをつくるべきである。
- ・会場全てを見なければいけないものではないということを発信し、もっと気軽に足を運んでもらえるようにできると良い。
- ・スタンプカードを配るなど、会場を巡ってもらうきっかけをつくと良い。
- ・大通公園は市民も観光客も行く場所なので、認識されるには有効で会場として使えると良い。

○子ども連れへの配慮について

- ・授乳スペースの案内をするなど、会場に訪れた子ども連れにも配慮をすると良い。

■来場者促進の取組み

【良かった点】

○市民参加型の企画について

- ・大風呂敷プロジェクトなど連携事業がよかった。市民が芸術祭の一員となっていることが良かった。
- ・市民参加型の企画があり、良かった。市民が参加することでその家族や地域の方々も見てくれるきっかけとなる。
- ・気軽さを展開できていたことが良かった。

○広報について

- ・ガイドブックは他の芸術祭だと販売しているところも多いので、無料で配布していることに驚いた。
- ・SIAF 通信でゲストディレクターの考えがよく分かったので、通信をもっと上手く活用して広めてほしいと思う。
- ・事前のイベントや説明の場（ゲストディレクターの顔出し）は良かった。
- ・のんちゃんが可愛かった（PRにはかなり大事なポイント）。
- ・市電のラッピングは良かった（地下鉄の方が利用者は多いが）。

○その他

- ・市民割引があったのがすごく良かった。
- ・スタンプラリーは意外と効果があったと思う。

【課題点】

○国際化について

- ・多言語の対策も必要ではないか。

○情報発信について

- ・ガイドブックなどから作品、作家、会場の関係性や、個人作家、参加型企画、音楽、展示等のジャンルが分かりづらかった。見ても作家が分からないので、会場に行く動機付けにならなかった。また、始まってみないと分からないという感じだった。
- ・日時などが“未定”と書かれていると、計画が立てられず困った。
- ・資料の文字サイズや色味に改善が必要である。一般の人が敷居を感じるガイドブックであった。
- ・会場が多いからこそガイドブックなどにアクセス各会場の住所、連絡先、アクセスを載せるべきである。
- ・チカホの柱に掲示した大風呂敷のインパクトが低かったため、ポスターマークの方が良かったのではないか。
- ・耳からの情報をもっとあった方が良い。
- ・マスメディアにとりあげられる事で効果が高まる。
- ・飲食店との連携で、お店の人とコミュニケーションを取ることで会場や作品を紹介してもらえるようになるが良い。
- ・自分たちで宣伝できる術（ツール）がなかった。
- ・運営側とアーティストの情報共有が出来ていなかったと思う。
- ・通常の展覧会のような事前広報のビジュアルが無く、市民の関心の持ちようが無かったのではないか。

○市民の関心や市民参加型企画について

- ・風呂敷など一部以外は、市民が関心を持つきっかけがあまりなく、市民との接点が薄かった。また、イベントは多かったが、市民参加型ワークショップが少なかった。
- ・一部分の関わりを深めるだけでなく、もっと広く市民に広げるべきである。
- ・学校との関わりが弱く、美術の先生ですら芸術祭を知らないこともある。
- ・海外の人に注目すると市民がなおざりになることもあるため、今回のような市民参加型を基本とし、発展させていくことで海外の方も参加していくようになると良い。
- ・芸術祭だけではなく、プラスαのものを組み合わせることで興味が向上する。

○時間帯について

- ・時間帯が限られる作品があり、見る人を選んでるように感じた。

○より多くの人に関わる工夫について

- ・興味のない方に興味を持ってもらうような構成の仕方が必要である。
- ・口コミなどの評判を見て来場する人は少ないため、行った人の評価次第で来訪者は増えるのではないか。
- ・委員になっている観光協会や商工会の方などにもっと関わってもらえると良い。一般の人達とつながりが持てるようになるのではないか。

○幅広い層の意見について

- ・芸術祭に行っていない人にアンケートをとるべきではないか。
- ・国際とはいえ、海外からのお客は少なかった印象である。海外の方の感想も知りたい。

○会場の整備について

- ・各会場に休めるところがあまりなかった。

【解決アイデア】

○分かりやすい展示の仕方について

- ・展示ごとの説明やそこに何ががあるかがもっと分かりやすい方がいい。通りすぎた人がアートと向き合える空間を主催者側がつくるべきである。

○会場の決め方について

- ・展示場所を札幌市が決め、その中から作家が展示場所を選んだのだとすると、作家が一から場所を選ぶことができると、もっと面白い作品が出てきたのではないか。

○子ども連れの方や高齢者への配慮について

- ・授乳スペースの案内をするなど、会場に訪れた子ども連れにも配慮をすると良い。
- ・来場者が休憩しながら見られるようにベンチを設置すると良い。

○開催時期について

- ・開催時期が良くないのではないか。9・10月では子どもたちの夏休みは終わっており、外の会場は寒いので、7、8月が良いのではないか。
- ・札幌は芸術祭を冬にやるべき。関わるべき人が関わらざるを得なくなり広がり期待できる。冬は雪まつりもあり観光に来る人が多いので、冬に開催するのは良い。

○情報発信について

- ・全体の会場配置が一面で見られるマップがあると良い。会場の位置が分かれば来る人は増えるのではないか。

- ・アプリや SNS での発信も良いが、紙媒体での案内は継続すべきである。
- ・地下鉄の電光掲示のテロップを活用すると良い。
- ・芸術祭の始まりがいつからか分からないため、オープニングイベントを大通で行ってはどうか。
- ・会場巡りのコース、会場巡りのポイント、旅行気分で廻れるような情報提供があると良い。
- ・ボランティアがその人に合う作品会場を推薦してもらえるようになると良い。
- ・アプリ開発をすると良い。

○周遊促進の取組について

- ・ターゲットに合わせたツアーを実施すると良い。

■ ③その他

【良かった点】

○若者の参加について

- ・アンケート結果を見て、若い方が多く来ているのが良いと思った。

○作品について

- ・歴史にフォーカスをあてた企画展示が多くて良かった。

○次に繋がる企画について

- ・札幌の再発見に繋がり、新たな活用に繋がると思う。
- ・ゲストハウスなどの企画は、芸術祭だけで終わらずに次に繋げることが出来そうである。

○市民の関心や市民参加型企画について

- ・公募の企画が良かった（札幌デザイン開拓使やゲストハウスなど）。
- ・公募で 100 の企画が集まった。市民に広がるきっかけになったと思う。
- ・500m 美術館のスキーの展示は市民の関心が高まった。市民にとって身近であり、来街者にとって新鮮なものだったと思う。
- ・500m 美術館のような通りに“動き”があるのは良い。アートに興味のない方も気軽に見ることができて、芸術に触れるきっかけとなっているのではないかと。

○市民の評価について

- ・今回の芸術祭に対して、良い評価が多かったことが良かったのではないかと。今後は、その評価を上手く利用していけると良い。

○その他

- ・アーティストと作る段階からボランティアとして参加できたのが良かった。
- ・ゲストディレクターの狙いとして、来場者がアートなのかどうか疑問に思う作品があったということや、展示会場にはっきりと説明がなく分かりにくいという話が出ていること自体が成果かもしれない。

【課題点】

○開催期間について

- ・今回は期間が長すぎたかもしれない。札幌の良い季節は 7 月~9 月なので、その時期に集中的に実施することも考えられる。

○作品のあり方について

- ・中には、理解出来ない作品もあった。アーティストの想いも大切だが、見る側がどう評価するかも大切である。

- ・炭鉱の地図は、美しいという意見がある一方で、芸術なのか疑問に思う人もいる。

○広報について

- ・国際芸術祭で市電のラッピングを実施していたが、それ以外の普段のラッピングが勿体無い。ただの広告だけでなく、できればデザイン性の高いものだけにしてほしいし、最低でも芸術祭の時はデザインを統一するなどしてほしい。

○分かりやすい展示の仕方について

- ・アートに詳しい人だけでなく、ただ通り過ぎた人にも分かりやすいように、作品ごとの解説があった方がよい。
- ・キャプションがバラバラだった。

○人材育成について

- ・スタッフも作品のことが分かっておらず説明が出来ていなかった。
- ・英語を話せるスタッフが少ない。
- ・小学生の子どもたちに国際芸術祭や作品について教えられる人がいないため、若者たちに教えてあげられる体制をつくっていくべきである。
- ・今後も芸術祭を継続的に発展させていくためには、子どもの頃からの教育が必要である。最初のきっかけは半分強制的になるかもしれないが、アートに触れる機会をつくるべきである。
- ・芸術に詳しいボランティアを育成し、増やしていくべきである。

○芸術祭の方向性について

- ・SIAF の位置づけが市の中ではっきりしてないのではないかと。市の中でも孤立している感じがする。本来、全ての部署にかかわることだと思う。
- ・SIAF の最終的な姿がまだ見えてないのではないかと。みんなで目指せるもの(方向性)があると良い。
- ・1回目、2回目は、テーマは音楽だったのか。テーマを決めて共通認識できるようにすべきである。
- ・ゲストディレクターが、どこにウエイトを置いているかが見えにくかった。

○運営、ボランティアスタッフについて

- ・意識やスタンスが多様なボランティアをいかにマネジメントしていくかが課題である。
- ・ボランティアとスタッフの間で不満がある。

【解決アイデア】

○若手・地元アーティストの起用について

- ・コンペを実施するなどして道内の地方で活動する実力のあるアーティストの作品を見てみたい。
- ・若手のアーティストにスポットを当て、札幌国際芸術祭発で3年に1回スターが出るような仕組みを作ってはどうか。

○作品を残す工夫について

- ・他都市の事例も参考にしながら、市民の意見を拾い“残したい作品”を聞いてはどうか。

○より多くの人の参加促進について

- ・より多くの年齢層に来てもらうためには、現代アートだけでなく昔から芸術と言われ分かりやすいもの(ゴッホなど)をバランスよく配置することも大切だと思う。
- ・いかに市民に浸透させていくか、考えていくべきである。
- ・次の開催までに、広く市民に伝わるような取組が出来るとよい。

- ・次回開催までの間に市民が集まる事が出来る場を設けてほしい。
- ・関係者や市民が上手く伝えるようになるための勉強会が必要である。
- ・何か目玉となるものが有ると良い。

○日常的な作品展示について

- ・雪の中での展示や場所を変えた展示など、期間中とは異なるシチュエーションで作品を見てみたい。
- ・芸術祭の瞬間的な展示でなく、日常的にまちなかにアート作品を展示し、市民から愛され、アートとまちが一体となる地域になると良い。
- ・芸術祭でつくられた作品を半永久的に残していきたい。

【質問等】

○国際芸術祭の方向性について

- ・札幌市として考える、国際芸術祭に訪れるターゲットはどこだったのか。
- ・国際芸術祭において、経済効果を求めるのか。

○市民の文化度について

- ・市民の文化度はどうなのか。

○来場者について

- ・各会場の人数及びパスポート利用の人数が知りたい。

○満足度について

- ・アーティストが参加してみたうえでの満足度や運営側の満足度を知りたい。

○会場やゲストディレクターの決め方について

- ・展示会場は作家が一から場所を選んだのか。それとも事務局である程度会場を絞った中からアーティストを選んだのか。
- ・ゲストディレクターはどの様に決めるのか。

○次回について

- ・次回の芸術祭の進捗や方向性について、知りたい。

2) グループ毎の意見

1 グループ

■総合評価 良かった4名、中間2名、悪かった1名

【良かった側に評価した理由】

- ・ボランティアにも参加したが、終わって振り返ってみて楽しかったという印象。
- ・前回の芸術祭と比べると内容は改善された。
- ・市民参加の取組は、大友さんの個性が出ており、とても面白かったと思う。
- ・ファインアートとしては問題あったのかもしれないが、面白かった。
- ・音楽と美術というテーマは、教え子たちがオーケストラに参加したこともあり個人的に楽しかった。
- ・運営側の意見として、準備から参加（芸森 EYE さんの作品）し、第一回芸術祭よりとても楽しむことができた。

【中間に評価した理由】

- ・資料館のくまの木彫りは良かったが、あれが芸術かと言われると少し疑問である。北海道の芸術とするならば熊の木彫りは元々アイヌ民族が作っていたものではない。テーマとミスマッチかもしれない。
- ・有名な方も出ていた。熊の木彫り、北海道のものとして良かった。
- ・資料だけではなかなか理解できないものも、実際に見にいくと意図が分かった。一方でアート（現代）としては、物足りなさもあった。
- ・石山ではベトナムのアーティストが参加するなど、国際的なことは良かった。

【悪かった側に評価した理由】

- ・会場をちりばめたことで芸術が市をおおうという取組は良かった。
- ・ただし、会場が遠いところもあり、高齢となると色々場所へ行くのは大変だと感じた。
- ・地下空間、何も知らない人からしたらスキー等の展示がアートとなるのか疑問だった。
- ・広報を見て期待して会場へ行くと少しがっかりするなど、広報とのギャップを感じた。

■ ①会場構成

【良かった点】

○日常的な場所が会場となっていることが良い

- ・街中で芸術祭を見ることができたのは、遠い場所に行かなくても普通に過ごしている中で芸術を感じられることが良かった。
- ・街中の喧騒の中で芸術を鑑賞するというのが、大友さんが取り組んでいるノイズミュージックとリンクしていると思った。

○普段行かないところに行けて良い

- ・街中の展示会場がすごく楽しかった。廃ビルなどを使ったことによって、行ったことのない場所に行くことができた。

○音楽と芸術の組み合わせが面白い

- ・音楽は場所が必要ないものなのに、場所を絞って行ったということが逆に面白かった。特に芸術の森や、スカイウェイの展示が面白かった。

○場になじむ展示はコンセプトに合っている

- ・「何をやっているか分からない」という意見があったが、説明書きをせず場に馴染む作り方をしているというコンセプトには合っているという考え方もある。

○市内に芸術が広がるという企画が良い

- ・市内に芸術が広がるという企画としては理想的で素晴らしいと思う。
- ・広く取組んだということは意欲的でいいと思う（企画としては良い所）。

【課題点】

○会場が多すぎて人手が足りない

- ・運営側の意見として、会場が多すぎたために人手が足りず大変だった。スタッフやボランティアの人数にあった会場数の設定が必要である。
- ・会場を多くするのであれば、ボランティアやアーティストももっと多くないといけない。

○会場構成が難しくチカホの展示の意図が分かりづらい

- ・チカホの会場は何を意図として展示しているのか分かりづらく、会場構成が難しいと感じた。

○自然の中の作品が少ない

- ・北海道は自然が良いところの一つであるのに、自然の中の作品が少なかった。

【解決アイデア】

○会場の作品ごとに説明書きをつける

- ・展示ごとに説明があるなど、そこに何があるか、もっと分かりやすい方がいい。通りすがった人がアートと向き合える空間を主催者側が作るべき。

○作家が一から展示場所を選ぶ

- ・展示場所を札幌市が決め、その中から作家が展示場所を選んだのか。作家が一から場所を選ぶことができる、もっと面白い作品が出てきたのではないかな。

○子ども連れにも配慮した会場づくり

- ・授乳スペースの案内をするなど、会場に訪れた子ども連れにも配慮をすると良い。

■ ②来場者促進の取組み

【良かった点】

○市民参加型のプロジェクトが良い

- ・大風呂敷プロジェクトなど連携事業がよかった。市民が芸術祭の一員となっていることが良かった。
- ・市民が参加出来る場があるのはすごく良い。市民が参加することでその家族や地域の方々も見てもらえるきっかけとなる。

○市民割引が良い

- ・市民割引があったのがすごく良かった（大友さんのアイデア）。

○ガイドブックが無料であること

- ・ガイドブックを無料で配布していることにビックリした。他の芸術祭だと販売しているところも多い。

【課題点】

○多言語対応が不十分

- ・多言語の対策も必要ではないか。

○会場アクセスがない等 HP やガイドブックが分かりづらい

- ・HP とガイドブックが分かりづらいという印象だった。特に各会場への行き方が書いておらず、会場

が多いからこそアクセスの仕方をのせるべきである。

○ガイドブックの文字や色味が見づらい

- ・資料の文字が小さすぎて高齢者にとっては読むのが大変である。色味も区別がつかない。

○教育機関との連携が不十分

- ・学校とのかかわりが弱いように思う。小中学校に芸術祭のことが十分に伝わっておらず、美術の先生ですら芸術祭を知らなかったりもする。

○会場にベンチ等の休憩設備がない

- ・各会場に休めるところがあまりなかった。

【解決アイデア】

○芸術祭終了後も市民がアートに携わる仕組み

- ・ボランティアや芸術祭に参加した人たちが、芸術祭が終わった後も何かアートに関係する活動が出来る場があると良い。

○入場券と交通機関の乗車券がセットになったパスポート

- ・パスポートの他に電車やバスなどの公共交通と入場券とがセットになっているものがあると、もっと来場者が増えるのではないかな。

○ツアー

- ・テーマを決めてテーマごとや全体を巡ることができるツアーを行うといいのではないかな。バスなどでツアーとして移動できると、集中して多くを見られるのではないかな。

○会場にベンチの設置

- ・ベンチなどがあると高齢の方も休みながらゆっくりと芸術を鑑賞できるのではないかな。

○ガイドブックは英語版と日本語版を分ける

- ・ガイドブックは、英語版と日本語版を別にして、文字を大きくするなど工夫してはどうか。

○小中学校との連携

- ・小中学校との連携など教育関係を巻き込みながら実施すると、参加者が増えるのではないかな。

■ ③その他

【良かった点】

○SIAF 通信が分かりやすい

- ・SIAF 通信がすごく良く出来ていると思った。大友さんの考えがよく分かったので、もっと上手く活用して広めてほしいと思う。

○若い世代が多く来場している

- ・アンケート結果を見て、若い方が多く来ているのが良いと思った。

○大友さんの狙いが成果に出ている

- ・大友さんの狙いとして、それがアートなのかどうかということや、展示会場にはっきりと説明がなく分かりにくいという事を、見た側が感じているということ自体が成果（狙い通り）かもしれない。

○ボランティアとして参加しやすい

- ・前回に比べるとボランティアとして参加するのもしやすかった。
- ・今回はアーティストと作る段階からボランティアとして参加できたのが良かった。

【課題点】**○開催期間が長すぎる**

- ・今回は期間が長すぎたかもしれない。札幌の良い季節は7月~9月なので、その時期に集中的に実施することも考えられる。

○芸術と呼べるのか分からない作品がある

- ・高齢者にはどんな作品なのか理解出来ないものもあった。アーティストの想いも大切だが、見る側がどう評価するかも大切だと思うし、芸術なのかどうか分からないものもあった。
- ・炭鉱の地図は芸術なのだろうか。
- あれは美しいと思う。

○市電の普段のラッピングが残念

- ・国際芸術祭で市電のラッピングを実施していたが、それ以外の普段のラッピングが勿体無い。ただの広告だけでなく、できればデザイン性の高いものだけにしてほしいし、最低でも芸術祭の時はデザインを統一するなどしてほしい。

○ボランティアとスタッフの関係

- ・色々ところでボランティアをやっている経験から、ボランティアとスタッフの間で不満がある。

【解決アイデア】**○目玉となる作品の設置**

- ・何か目玉となるものが有ると良い。

○地元のアーティストの起用・コンペの実施

- ・もっと地元のアーティストを起用することも大事である。コンペを実施するなどして北海道の地方で活動する実力のあるアーティストの作品を見てみたい。
- ・有名なアーティストだけでなく、若手のアーティストにスポットを当てて、札幌国際芸術祭発で3年に1回スターが出るような仕組みを作ってはどうか。

○様々な年齢層に楽しんでもらえる作品の設置

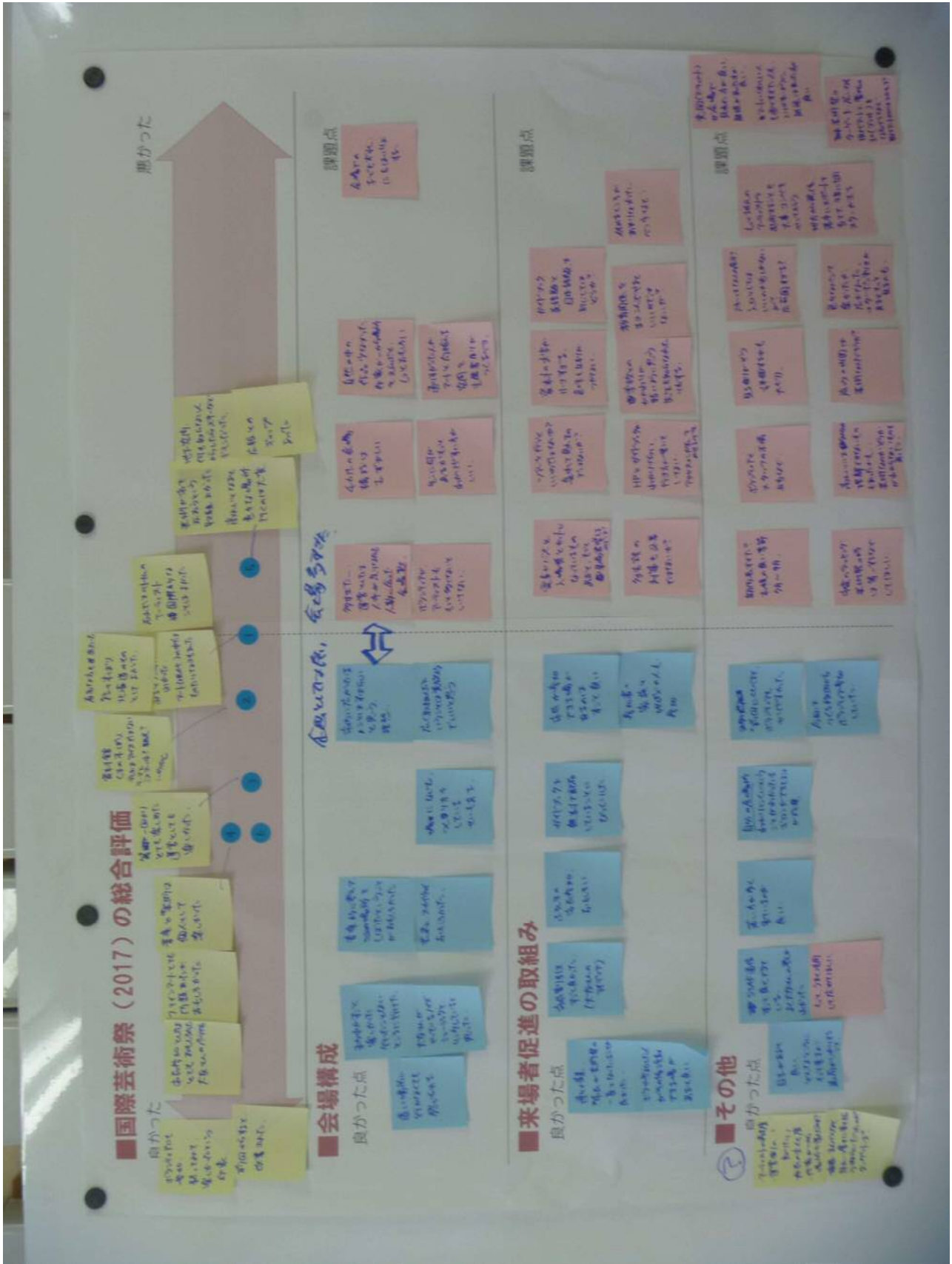
- ・全年齢層に来てもらう狙いだったのであれば、現代アートだけでなく昔から芸術と言われる分かりやすいものをバランスよく配置することも大切だと思う。

○会場の作品ごとに説明書きをつける

- ・アーティストの意図が会場で見られた方が良いので、会場に作品ごとに解説があった方がよい。アートに詳しい人だけでなく、ただ通り過ぎた人にも分かりやすい様に解説はあった方がよい。

【質問等】

- ・アーティストが参加してみたうえでの満足度や運営側の満足度を知りたい。
- ・市民の文化度はどうなのか。
- ・今回会場をたくさん設けたが、作家が一から場所を選んだのか。それとも事務局である程度会場を絞り、その中からアーティストが自分の作品を置きたい場所を選んだのか知りたい。
- ・札幌市として考える、国際芸術祭に訪れるターゲットはどこだったのか。



1 グループ模造紙

2 グループ

■ 総合評価 良かった4名、中間1名

【良かった側に評価した理由】

- ・個人的に楽しかった。
- ・おおよそ全部まわった。SIAF ボランティアとしてコンシェルジュを提案して実施した。
- ・芸術祭を実施した人の頑張りが伝わっていない。
- ・広すぎたことと、バイリンガルではないことが残念。
- ・やったこと自体が素晴らしかった。
- ・市民の関心が前回よりも低かった。
- ・何のためにやっているのか市民に伝わっていない。
- ・市内を旅する感じで良かったが周りきれない数で全部行けず悔しかった。
- ・会場が多すぎて周れなかった。パフォーマンス系に行けなかった。
- ・イサムノグチ見に行った。

【中間に評価した理由】

- ・主要会場には行った。
- ・相対的に前回より良かったが、札幌でやっていることの特色を出したほうが良い。

■ ①会場構成

【良かった点】

○会場巡りが旅のようで楽しい

- ・モエレから芸森まで広いがゆえに旅しているようだった。

○作家が会場を選ぶことで作品が良くなっている

- ・作家が会場を選べるのが良い。作家が自分で会場を選ぶ事で作品もより良くなる。あらかじめ会場が決まっていて与えられるだけだと、枠が出来てしまい、作品も小さく収まってしまうと思う。

○普段行かない・入らないところに行けて新たな発見

- ・札幌市内の施設で、普段行かない場所に入ることが出来て再発見につながった（ゲストハウス、市電等）。
- ・芸術祭がないと芸術の森にもモエレ沼公園にも行かないのでこれを機会に今回行くことが出来て良かった。

○日常的な場所が会場となっていることが良い

- ・郊外を会場に使っていたことが良かった。室内ではなく、屋外の身近な普通の場所を使うということが良かった。

○意外性・バリエーションの多様性が良い

- ・金一館ビルの作品が良かった。作品化されていて意外性もあった。ひいてみた時に、全体としてのバリエーションが出て良かったと思う。

【課題点】

○会場が多すぎて周りきれない

- ・会場が多すぎて頑張っても周りきれなかった。

○エリアが広すぎて周りきれない

- ・広すぎて周れない。
- ・相当、スケジュールを綿密に立てないと見にいけない。
- ・外からくるお客さんをモエレや芸森へ連れて行くのが大変だった。札幌での時間が限られていると、モエレと芸森はどちらか選択してもらうしかなかった。

○作品がまとまっていない

- ・もう少し、作品がまとまっていると良かった。

○会場のある地区に偏りがある

- ・清田区、手稲区など、会場の無い地区は除外されている感があった。

○会場を探しにくい・会場情報が足りない

- ・バリアフリー情報足りなかった。
- ・ガイドブックに住所が無くて会場を探しにくかった。

【解決アイデア】

○会場巡りコース・ポイント情報の提供

- ・会場巡りのコースをどう組み立てると良いかといった情報提供を頑張るべき。
- ・来る人が、その時間の中でスケジュールを組めるように情報提供をするべき。
- ・押さえどころなど、会場巡りのポイントを分かりやすく示すと良い（魚がんチャートはアイデアとして良かった）。
- ・会場構成が広いことを大前提に組み立てる。周る事が楽しいようにシミュレーションをして情報提供すると良い。

○ボランティアがコンシェルジュとなり作品や会場を推薦

- ・ボランティアとコミュニケーションとすることで、その人（自分）に合う作品会場を推薦してもらえるようになると良い。

○旅的魅力を全面に出す

- ・旅行気分で周ることを推進する。
- ・瀬戸内芸術祭は船で巡らなければいけないためリスクーだが、その分、魅力がアップしている。

○アプリ開発

- ・アプリ開発をすると良い。

○交通手段との連携

- ・交通手段と合わせた情報提供を行う。
- ・芸術祭を巡る専用タクシーがあってもよい。

■ ②来場者促進の取組み

【良かった点】

○大友さんの事前顔出し（イベント・説明会）

- ・事前のイベントや説明の場（大友さんの顔出し）は良かった。

○のんちゃんの起用

- ・のんちゃんが可愛かった（PRにはかなり大事なポイント）。

○市電ラッピング

- ・市電のラッピングは良かった（地下鉄の方が利用者は多いが）。

○スタンプラリー効果

- ・スタンプラリーは意外と効果があったと思う。

【課題点】

○ビジュアル不足・何を見ることが出来るのか事前にわからない

- ・関心の持ちようが無かったのでは。通常の展覧会のような事前広報のビジュアルが無く、何を見ることが出来るのかがわからなかった。
- ・始まってみないと分からないという感じだった。
- ・自分たちで宣伝しようとしても宣伝する術（ツール）がなかった。

○市民との接点不足・関心を持つきっかけ不足

- ・市民の関心が弱い。市民との接点が薄かった。
- ・風呂敷など一部以外は、生活との関わりを持てなかった。
- ・関心を持つきっかけがなかった。
- ・一部分に一所懸命に関わりを深めるだけでなくもっと広く市民に広げるべき。
- ・イベントは多かったけど、市民参加型WSが少なかった。

○作家がわからない・知らない

- ・プログラムを見ても作家が分からない、知らないので、行く動機付けにならなかった。

○運営側も情報共有が出来ていない

- ・やっている人側も情報共有出来ていなかったと思う。

○チカホの掲示がインパクト不足

- ・チカホの柱に掲示した大風呂敷のインパクトが低く、ポスターマークの方が良かったのではないか。

○英語対応が出来ていない

- ・バイリンガルは必須だと思う。

【解決アイデア】

○芸術祭を冬に開催すべき

- ・札幌は芸術祭を冬にやるべき。かかわるべき人がかかわらざるを得なくなり広がり期待できる。
- ・冬に開催するのも良いと思う。冬は雪まつりもあり観光に来る人が多い。
- ・除雪も見応えがある。
- ・芸術祭だけではなく、プラスαのものを組み合わせることで興味がアップする。

○大通公園を会場に

- ・大通公園を会場として使えると良い。大通り公園は市民も観光客みんな行く中心だから。
- ・大通公園は市民に認識されるには有効。
- ・芸術祭がいつからスタートか分からない。オープニングイベントなどに大通公園を使うと良いと思う。

○耳からの情報・人目に触れやすい広告媒体・マスメディアを活用した宣伝

- ・耳からの情報がもっとあった方が良い。
- ・前回は坂本さんが病気になったことが結果的に話題性につながった。マスメディアにとりあげられる事で効果が高まる。

- ・地下鉄の電光掲示のテロップを活用すべき。

○他分野の方々や飲食店との連携

- ・委員になっている観光協会や商工会の方々などにももっと関わってもらえると良い。一般の人達がかかわる、つながりが持てるようになるのではないかな。
- ・飲食店との連携で、お店の人とコミュニケーションを取ることで会場や作品を紹介してもらえるようになるとうと良い。

○ツアーの実施

- ・ツアーで芸術文化を広げて行くこと。エクステンションが大事。
- ・ツアーをやるべき。

○行かなかった人へのアンケート調査

- ・行っていない人に（街かど）アンケートをとるべき。

■ ③その他

【良かった点】

○公募企画が良かった・市民に広がるきっかけにもなった

- ・公募の企画が良かった（札幌デザイン開拓使やゲストハウスなど）。
- ・公募で企画が100集まった。市民に広がるきっかけになったと思う。

○歴史や市民に身近なテーマの展示企画が良かった

- ・500ル美術館のスキーマの展示は市民の関心が高まった。市民にとって身近であり、未街者にとって新鮮なものだったと思う。
- ・歴史にフォーカスをあてた企画展示が多くて良かった。

○札幌の新たな発見や次に繋がる取組になった

- ・札幌の再発見に繋がった。新たな活用に繋がると思う。
- ・お祭りに終わらずに次に繋げることが出来そう（ゲストハウスなど）

【課題点】

○スタッフの作品等への理解不足

- ・スタッフも作品のことが分かっておらず説明が出来ていなかった。

○キャプションがバラバラ

- ・キャプションがバラバラだった。モエレと札幌ゲストハウスは良かった。

○ボランティア運営

- ・意識やスタンスが多様なボランティアのグラデーションがある中で、ボランティアをいかに運営していくかが課題。

○英語対応

- ・英語を話せるスタッフが少ない。

○SIAFの位置づけやビジョン・テーマ・方向性の明確化

- ・SIAFの位置づけが市の中ではっきりしていないのでは？市の中でも孤立している感じがする。本来、全ての部署にかかわることだと思う。
- ・SIAFの最終的な姿、ビジョンがまだ見えていないのではないかなと思う。
- ・1回目、2回目は、テーマは音楽だったのか？それならそれで良いのだが、共有されていないので、そう決めて共有できるようにすべき。

・みんなで目指せるもの(方向性)があると良い。

○現代アートへの興味不足

・行かなかった人は、アート、特に現代アートに興味がない。遠いし、有料だとほぼ行かないと思う。
ルノアール展など分かりやすいものには興味を持っているが。

【解決アイデア】

○創造都市札幌の実現に向けた取り組みとして市民への浸透を推進

・芸術祭は創造都市札幌の考えから始まっているはず。アーティストがやっていることを参考にしながら、いかに市民に浸透させていくかが今後考えていくべきこと。

○次回開催までの市民に伝わる取組を

・次の開催までに、広く市民に伝わるような取組が出来るとよい。

○次回開催までに市民があつまる場を

・SIAF ラボみたいな感じで、次回開催までの間に市民が集まれる場をもうけてほしい。

○関係者・市民向けの勉強会開催

・関係者や市民が上手く伝えることが出来るようになるための勉強会が必要。



2 グループ模造紙

3 グループ

■ 総合評価 良かった4名、中間1名

【良かった側に評価した理由】

- ・テーマやテーマに沿った個々の作品の内容は興味深く、良かった。
- ・作家の色々な価値観が感じられた。
- ・バリエーションのある展開が良かった。
- ・作品と運営の双方を総合的に評価するのは難しい。
- ・会場の数が多く、少し欲張りすぎだと感じた。ロケーションが散漫になっていた。
- ・会場へのアクセスを考えて欲しい。
- ・会場周辺の誘導がほしい。
- ・芸術祭が何を目標しているのかが分からない。

【悪かった側に評価した理由】

- ・会場の位置が分かりづらく、ナビにも表示されないような場所があった。
- ・会場周辺にたどり着いても、入口や駐車場の位置が分からず、誘導が必要だと感じた。
- ・会場内にスロープがありバリアフリーを意識している箇所もあったが、入口近くのスロープの出口が会場の出口に通じていたこともあったため、動線が考えられていると良い。
- ・より多くの人を訪れやすく、訪れたときに分かりやすいイベントとしたい。

■ ①会場構成

【良かった点】

○ボランティアによる誘導が良い

- ・会場内の誘導をボランティアが頑張っていた。

○テーマに合った会場構成

- ・会場が点在していたが、テーマに沿った形としては必然的な構成だったのではないかと。

【課題点】

○会場が多すぎて周りきれない

- ・札幌中心部から遠くアクセスしにくい会場が多かった。

○会場配置が分かりづらい・会場情報が足りない

- ・ガイドブックやリーフレットを見ても伝わりづらい会場配置となっていた。
- ・ガイドブックに会場の連絡先が書いていないため、会場の位置が分からなかったとき、困った。

○日時が決まっていない

- ・日時などが“未定”と書かれていると、計画が立てられず困る。

○芸術祭で会場巡りをすべきか疑問

- ・街をまわってもらうことがアートなのか、疑問である。

○会場の雰囲気が入りづらい

- ・より気軽に足を運んでもらいたいが、会場の雰囲気的にも入りづらい。

【解決アイデア】

3グループ

○会場巡りや気軽な参加のきっかけづくりが必要

- ・スタンプカードを配って回れるようにするなど、会場を巡ってもらうきっかけをつくってはどうか。
- ・より一般の人にも足を運んでももらうきっかけをつくるべきである。
- ・会場全てを見なければいけないものではないということを発信し、もっと気軽に足を運んでもらえるようにできると良い。

■ ②来場者促進の取組み

【良かった点】

○来場者数の多さ

- ・来場者数が思っていたより多く、驚いた。

○市民参加型の企画

- ・市民参加型の企画が面白かった。
- ・ちょっと見かけて参加してみて、気軽にアートに触れられた、という気軽さを展開できていたことが良かった。

【課題点】

○関心を持つきっかけがない

- ・より多くの人に来てもらうべきである。
- ・興味のない方に興味を持ってもらうような構成の仕方が必要である。

○時間帯が限られている

- ・時間帯が限られる作品があり、見る人を選んでいるように感じた。

○海外の方が少ない

- ・「国際」芸術祭とはいえ、海外からのお客は少なかった印象である。
- ・海外の方の感想も知りたい。

○分かりづらい情報発信

- ・作品、作家、会場の関係性が分かりづらい。
- ・ガイドブックなどから個人作家、参加型企画、音楽、展示等のジャンルが分かりづらかった。

○敷居を感じる情報発信

- ・ガイドブックを見て「勉強しなければ」という気持ちになる。一般の方は、より敷居を感じるのではないか。

【解決アイデア】

○開催時期の検討

- ・開催時期が良くないのではないか。9・10月では子どもたちの夏休みは終わっており、外の会場は寒いいため、7、8月が良いのではないか。

○口コミによる来場促進

- ・口コミなどの評判を見て来場する人も多くいるため、行った人の評価次第で来訪者は増えるのではないか。

○市民に根付く芸術祭

- ・海外の人に注目すると市民がなおざりになることもあるため、今回のような市民参加型を基本とし、

発展させていくことで海外の方も参加していくようになると良い。

○分かりやすい会場配置図の作成

- ・全体の会場配置が一面で見られるマップがあると良い。会場の位置が分かれば来る人は増えるのではないか。

○紙媒体での情報発信の継続・安定化

- ・アプリやSNSでの情報発信も良いが、紙媒体での案内は欠かせない。
- ・期間中にガイドブックの在庫が無くなったと思われる。常にあるようにすべきである。

■ ③その他

【良かった点】

○500m美術館がアートに触れるきっかけになる

- ・500m美術館ができて、嬉しかった。それまでは閑散としていた通路にアートが出現し、楽しみができた。
- ・500m美術館のような通りに“動き”があるのは良い。アートに興味のない方も気軽に見ることができて、芸術に触れるきっかけとなっているのではないか。

○市民の評価が高かった

- ・今回の芸術祭に対して、良い評価が多かったことが良かったのではないか。今後は、その評価を上手く利用していけると良い。

【課題点】

○ゲストディレクターの趣旨が分かりにくい

- ・ゲストディレクターが、どこにウエイトを置いているかが見えにくかった。

○人材育成の体制ができていない

- ・小学生の子どもたちに国際芸術祭や作品について教えられる人がいないため、若者たちに教えてあげられる体制をつくっていくべきである。
- ・今後も芸術祭を継続的に発展させていくためには、子どもの頃からの教育が必要である。最初のきっかけは半分強制的になるかもしれないが、アートに触れる機会をつくるべきである。

【解決アイデア】

○ボランティアの育成

- ・ボランティアガイドを増やして欲しい。
- ・芸術に詳しいボランティアを育成していくべきである。

○作品の常置化・まちなかでの展示

- ・雪の中での展示や場所を変えた展示など、期間中とは異なるシチュエーションで作品を見たい。
- ・芸術祭の瞬間的な展示でなく、日常的にまちなかにアート作品を展示し、市民から愛され、アートとまちが一体となる地域になると良い。
- ・芸術祭でつくられた作品を半永久的に残していきたい。
- ・他都市の事例も参考にしながら、市民の意見をひろって“残したい作品”をきいてはどうか。

【質問】

○来場者数の内訳

- ・各会場の人数及びパスポート利用の人数が知りたい。

○芸術祭の方向性

- ・国際芸術祭において、経済効果を求めるのか。

○ゲストディレクターの決め方

- ・ゲストディレクターはどのように決めるのか。

○次回芸術祭について

- ・次回の芸術祭の進捗や方向性について、知りたい。



3 グループ模造紙